

平成15年11月17日  
専門小委員会資料

## 分野ごとの課題及び施策の方向

### 第一小委員会

#### 観光部会

No	課 題	施 策 の 方 向
1	<p><b>広域観光ルートの再構築と情報発信</b></p> <p>高速交通網、特に仙台～山形～庄内の高速道、空港を利用する横軸と新潟～庄内～秋田のJRを利用する縦軸の活用策を考える必要がある。</p> <p>(1) 当地方においても、空港、高速道等の高速交通網の整備が進んできた。一方で旅行形態も、従来の団体旅行型から自然、歴史、文化、文学、レジャー志向といった、目的意識を持つ個人・グループ型旅行に移行してきている。</p> <p>そうした環境の変化に対応する意味から、仙台空港～山形空港～庄内空港、村田IC～庄内地方の各IC、新潟～庄内～秋田の各駅をそれぞれ連結する形での、多様な観光ルートの再構築が必要とされてきている。</p> <p>(2) 当地域は各観光施設間の距離が離れているため、また、いわゆる交通弱者に対する配慮の面等からも、空港や駅からバス、自転車等により継ぎ合わせる形での二次交通の整備が必要であり、順次ニーズに対応して整備に努めることが求められている。</p> <hr/> <p><b>域外に対するリアルタイムな観光情報の発信が必要である。</b></p> <p>(1) 観光誘客を進めるためには、地域の外に向けて、生の観光情報を素早く継続的に提供し続けていく必要がある。また、旅行代理店等の送客側と受入れ側相互の信頼を築く上では、お互いの顔の見える情報のやり取りも欠かせない。</p> <p>(2) 今後の国内の人口推移や周辺諸国の経済発展等を考えた場合、国際観光の振興を図る必要性がある。</p>	<p><b>オンリーワンの観光ルートづくり</b></p> <p>(1) 自然、文学、トレッキングを含むスポーツ、レジャー等観光の目的別に特化、あるいはそれぞれをミックスした広域観光ルートの再構築。</p> <p>(2) 春夏秋冬の季節に応じた、広域観光ルートの再構築</p> <p><b>ニーズに応じた二次交通、テーマバスの整備</b></p> <p>(1) 観光客のニーズに応じて駅、空港、観光施設、温泉地等を結ぶ二次交通としてのバスやレンタサイクルの整備。</p> <p>(2) 季節のイベント・祭に併せて運行する、テーマバスの整備。</p> <hr/> <p><b>旅行代理店等への情報提供と人的ネットワークの活用</b></p> <p>(1) JR及び各旅行代理店等への積極的な観光情報の提供。</p> <p>(2) 旅行雑誌、新聞等への記事や広告の掲載。</p> <p>(3) 東京事務所の観光面での活用及び庄内出身者等人的ネットワークを生かした誘客・宣伝活動の実施。</p> <p><b>国際観光のPR</b></p> <p>・出羽三山等外国に訴える力のある観光地を、ミッション等の機会を捉えてPRを行なう。</p>

No	課 題	施 策 の 方 向
2	<p><b>観光関連組織、施設の充実強化</b></p> <p>観光協会等観光関連組織の充実と強化が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政、商工団体等を除くと、観光誘客活動及び祭、観光イベント等を実施しているのは、観光協会等の組織及び地元実行委員会等であり、地域で頑張っている、これら観光協会等の組織を充実させる必要がある。</li> </ul>	<p><b>組織に対する支援方法の確立とリーダーの育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適正な財政援助のあり方を探るとともに、組織のリーダーを地域とともに育成する。</li> </ul>
	<p><b>各観光施設や温泉施設等の効率的な運営が求められている。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当地域の観光施設には、スキー場、温泉、博物館等多様な施設があるが、中には入館者や利用客が減少してきている施設も見受けられるため、施設を取巻く客観的状況等をよく把握し、より効率的な運営を行なう必要がある。</li> </ul>	<p><b>将来計画等の策定</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>経営状況等施設の現状を把握し、その特性、設置目的、将来構想等を考慮の上、より良い運営形態、管理体制を検討する。</li> <li>施設のリニューアルの促進。</li> </ol>
	<p><b>温泉地自らの魅力向上と各種体験型観光・グリーンツーリズムの受け入れ拡大による、滞在型観光の充実が求められている。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高速交通網が整備されたことによって、逆に素通りの観光地とならないために、温泉地そのものの魅力を向上させる施策や体験型観光・グリーンツーリズム等のメニューを充実させ、滞在型の観光地として地域全体のグレードをアップさせなければならない。</li> </ul>	<p><b>温泉地の自助努力を支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各温泉地の特色を生かした、飲泉所の設置、朝市の実施といった温泉地の自助努力を支援する。</li> </ul> <p><b>体験型観光受け入れ施設との連携とリーダーの育成</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>体験型観光受け入れ施設、JA、農家等との連携。</li> <li>事業推進の核となるリーダーの育成。</li> </ol>
	<p><b>ソフト面の充実等によって、観光客を受け入れる体制を整備する必要がある。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リピーター客を確保するためには、観光客を受け入れる住民の意識を向上させる等、ソフト面の充実にも力を入れる必要がある。</li> </ul>	<p><b>観光ガイドの育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光ガイドの拡充と質的向上を目指す。</li> </ul> <p><b>住民に対する「もてなしの心」の浸透</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住民に対してホスピタリティ＝「もてなしの心」の啓蒙を行い、リピーター客を確保する。</li> </ul>

No	課 題	施策の方向
3	<p><b>まつりの振興</b>            各地域におけるまつり・イベントの振興のために、行政の適正な支援を行なう必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まつり・イベントを長く継続していくためには、まつりを盛り上げる工夫、情報の発信、実施予算の確保、後継者の育成等が必要とされる。</li> </ul>	<p>地域のまつりに対する継続的な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史と伝統、経過を最大限に尊重しながら、後継者の育成に留意して、祭を住民主体で活力あるものにしていく。</li> </ul>
4	<p><b>地場産品等の販路開拓と食文化の紹介</b>            地場産品の再調査と首都圏等における販路の開拓・拡大が必要とされる。また、滞在者に対する食文化の紹介、提供が求められている。</p> <p>(1) 低迷する景気、JAS法の施行等によって、特産品の首都圏等における販売も大きく影響を受けてきている。            どのような特産品が消費地で受け入れられるのか、この際改めて情報を収集する必要がある。</p> <p>(2) 地域に滞在する観光客にとっては、観光と同時に、地域の特産品等を食することも大きな目的となってきた。            幸い当地域は四季折々の特産品の宝庫であり、それらを利用した食文化が形成されているため、これを目的地を選択する際の一つのインセンティブ、動機付けとして活用され得るような仕組み、方法を考えていく必要がある。</p>	<p>地場産品の再調査と販路の開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏等の市場において、販路の拡大、開拓が期待される地場産品について再調査する。</li> </ul> <p>関係機関等の連携の場面づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA、産直施設、県・市東京事務所、首都圏の関係業者・消費者等から情報を収集するとともに、連携の場面作りを行なう。</li> </ul> <p>食と観光を融合した、新たな視点の観光メニューづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の味覚を提供可能な施設をリストアップするとともに、食のメニューと観光を結びつけた、新たな観光コースを考える。</li> </ul>